

専科指導を取り入れた英語教育の充実に向けて

英語専門教師を効果的に位置付ける四つのパターン例

パターンC 学級担任が英語専門教師の場合

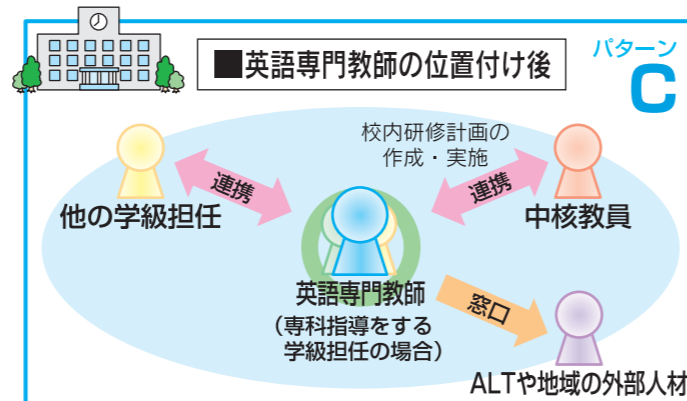
良い点

- ・指導する学級の担任と連携して指導することで、より指導の効果が上がる。
- ・他の指導者がいる場合には、専科指導をする学級担任が中心となって、基本となる時間割を設定したり、評価の観点を統一したりすることができる。

留意点

- ・自分の学級以外に、指導する学級の児童について確実な把握と適切な評価をする工夫が必要。
- ▶年度当初など、専科指導の導入時期に、学級担任がTTとして入るなどの工夫が考えられる。

- ・他の学級で専科指導を行うとき、自分の学級は、他の指導者が授業を行っているため、当該教科の指導と評価の方針についての共通理解が必要。
- ・他に英語指導を得意とする教員や、中核教員がいる場合には、研修内容について連携を図ることが必要。

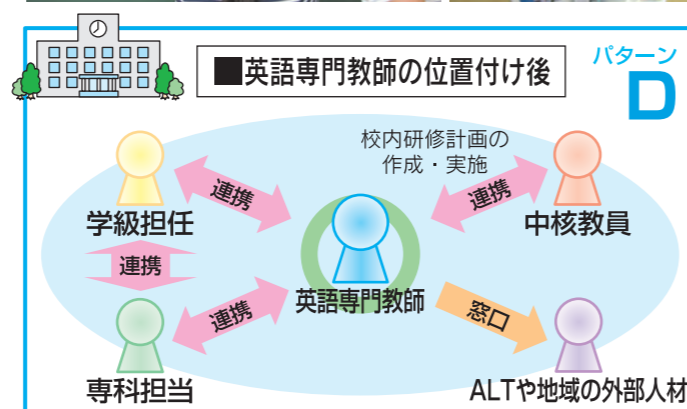


パターンD 専科指導を行わない教員が英語専門教師の場合

【専科指導を行わない場合の英語専門教師の役割】

次のような役割が可能

- ・年間指導計画の作成
- ・ALTとの連携役
- ・地域の方(アシスタント・ティーチャー)との連携
- ・実践した学習内容の記録化
- ・教材の開発・蓄積、教材の整理
- ・学年、学級担任と専科教員とをつなぐ役割
- ▶名札の作成や、学級写真等の用意
- ・これからの小学校英語教育の充実に向けた研修の推進
- ▶模擬授業の実施
- ▶アクティビティの紹介
- ▶教材の紹介 など



留意点

- ・英語専門教師が、外国語活動や外国語の授業を担当しない担任の場合、授業者が別にいることから、実際の授業の様子について把握したり、指導時期や内容について随時調整したりすることが必要。

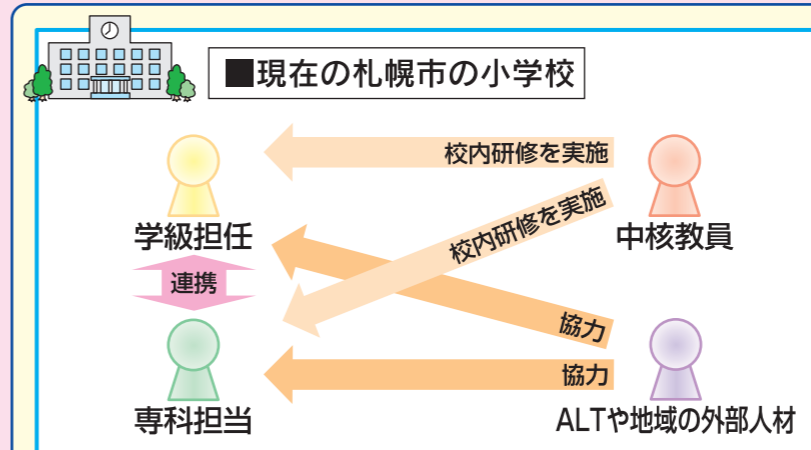
作成委員 小学校英語専門教師配置事業 平成28年度研究推進校
 幌西小学校 日新小学校 太平小学校 屯田南小学校 あいの里西小学校
 北郷小学校 北の沢小学校 八軒西小学校 平和小学校 新陵小学校

事務局 札幌市教育委員会学校教育課
制作・発行 札幌市教育委員会「札幌市小学校における英語教育推進のすすめ」平成29年2月発行
印刷 小南印刷株式会社 札幌市中央区北9条西23丁目2-5

小学校英語専門教師配置事業

札幌市小学校における英語教育推進のすすめ

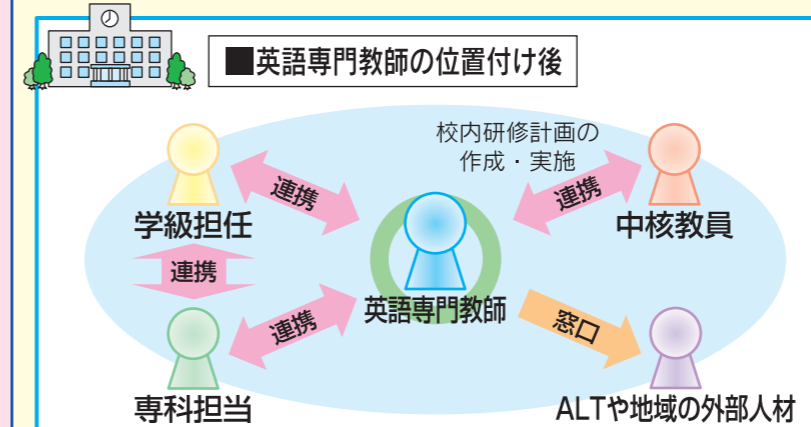
～各学校で英語専門教師を位置付けて～



札幌市小学校における英語教育の現状と課題

授業を実施している専科担当や学級担任、または担任外教諭等が、それぞれ外国人指導助手(ALT)と対応したり、授業を工夫したりしながら実施しているため、学校として英語教育の指導体制や教育課程がうまく機能していない場合や、十分に共通理解されていない場合がある。

【英語専門教師の役割】



小学校英語の充実へ

校内において位置付けられた英語専門教師が、英語教育のコーディネーター役となり、年間指導計画の作成や、教材の整備、評価に関すること等について中心となって取組を進め、英語教育の充実を図るための**校内体制づくりを推進する**。

これからの小学校英語教育の充実に向けて

★小学校英語専門教師配置事業とは★

- 1 事業目的**
全ての小学校において、外国語活動の授業の充実に向けた取組を中心となって推進する教員（以下、「英語専門教師」という。）を、平成31年度までに段階的に位置付け、英語教育に係る**校内体制づくり**を推進する。
- 2 英語専門教師の役割**
英語専門教師は、所属する小学校において、以下の内容等について推進する役割を担う。
(1) 外国語活動の指導計画作成に関すること
(2) 外国語活動に係る教材の整備に関すること
(3) 外国語活動の専科指導に関すること
(4) 外国語活動に係る外部人材活用に関すること
(5) 外国語活動の情報提供や情報交換に関すること
(6) 外国語活動推進中核教員等と連携した校内研修・研究に関すること
- 3 英語専門教師の位置付け**
次のいずれかに該当する者を**英語専門教師として、各学校において位置付ける。**
(1) 外国語（英語）教諭普通免許を有する者
(2) 札幌市小学校外国語活動推進中核教員養成研修を受講した者
(3) 学校長が英語専門教師としてふさわしいと判断する者

※平成28年（2016年）4月19日付通知 札幌教課第166号

小学校英語専門教師に求められること



各小学校における英語教育の充実

- ・ 自校における子どもの実態や地域の実情等を踏まえ、年度ごとに外国語活動、外国語の推進計画を策定する。
- ・ 英語専門教師の役割を効果的に進めるため、校長、教頭、教務主任、研究部長、事務職員などと、積極的に相談、連携を行う。
- ・ 外国語活動、外国語の授業充実に向け、授業者や、研修を行う指導者と連携する。
- ・ 最新の動向について随時、情報提供や研修を行い、教職員の理解を深める。

連携

他の教諭等に求められること



中核教員

- ・ 「外国語活動推進中核教員養成研修」を修了した中核教員は、研修した内容の各項目について、校内研修を実施し、学級担任等の指導力の向上を図る。



専科担当

- ・ 外国語活動、外国語の授業を行う。
- ・ 年間を見通した計画を立て、専門性を生かした授業と評価を行う。



学級担任

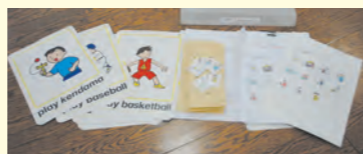
- ・ 専科担当が指導しない場合に、外国語活動や外国語の授業を行ったり、評価を行ったりする。
- ・ 専科担当の授業にTTとして入り、指導を行った場合にのみ、評価も行うことができる。

※その他に連携を必要とする教職員には、校長、教頭、教務主任、研究部長、事務職員などがある。



ALTや地域の外部人材

- ・ ALT等と協力した授業を行うことで、生きた英語や異文化にふれる機会を増やすことができる。



今後の予定

平成29年度（2017年度）

- ・ 札幌市における専科指導の本格実施

平成30・31年度（2018・2019年度）

- ・ 次期学習指導要領を段階的に先行実施
- ・ 移行措置

次期学習指導要領全面实施

平成32年度（2020年度）

- ・ 高学年の「外国語」教科化
- ・ 中学年に「外国語活動」新設

小学校英語教育の充実

英語専門教師を平成31年度までに各学校で位置付ける

専科指導を取り入れた英語教育の充実に向けて

英語専門教師を効果的に位置付ける四つのパターン例

専科指導をする場合に共通して

良い点

- ・ 学級担任等へ模擬授業を行い、校内で目指す英語教育のイメージを共有することができる。
- ・ 複数の学級、学年で授業を行うことで、評価の統一性が図られる。記述評価等に対する学校の見解を統一することができる。
- ・ 学校説明会等で保護者に具体的な取組を説明する役に適する。
- ・ 指導するための専用教室を設定するなどにより、教室環境等の整備がしやすい。
- ・ 授業時に指導者が替わることが、英語に切り替わるきっかけとなり、英語を話す雰囲気をつくりやすい。

留意点

- ・ 年間を通じて計画的に、授業時間を確保することが必要。
 - ・ 適切な評価をするために、学級担任等との情報交換が重要。
- ▶ 名札・座席表を整備するなど、子どもの名前が分かる工夫が必要。



パターンA 担任外教諭が英語専門教師の場合

良い点

- ・ 基本的には固定時間割に基づいて授業を行うため、授業時間が毎週確保される。
- ▶ 空き時間に学級担任が学級事務を行う時間を確保できる。業務のバランスがとれる。

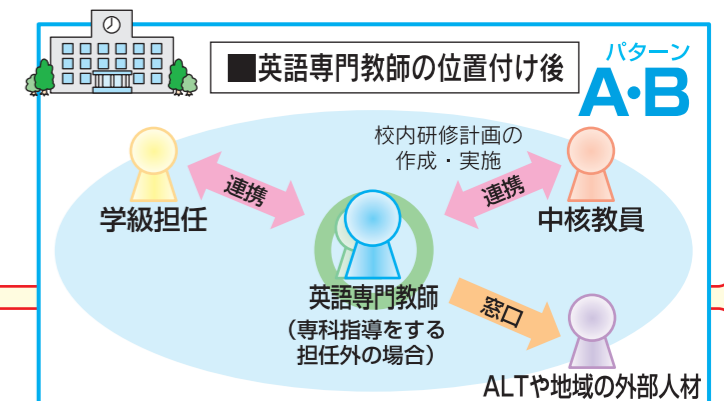
○ALTの効果的な活用

- ・ 調整役と授業者が同じであることから、ALTとの連携及び、効果的な活用が行える。
- ▶ ALTとの授業では、子どもの様子を見取り、評価を行うことができる。
- ▶ 時間割の調整役を兼ねているため、ALTの配置日に合わせて、適切な授業内容に調整できる。



留意点

- ・ 指導者によって指導に差異が生じないように、年間を通じた学習計画や、実施時期のコーディネートが重要。
- ・ 固定時間割を作成するための学校体制の確立が必要。
- ・ 学校における小学校英語教育に関するカリキュラムづくり、指導の重点やねらいの明確化が必要。
- ・ 中核教員と連携した、校内研修の実施や、中核教員、英語専門教師が替わっても継続的な取組ができるような学校体制づくりが重要。



パターンB 加配教員が英語専門教師の場合

良い点

- ・ 専門性を生かした指導ができることで、実践のデータをより蓄積しやすい。
- ・ 複数校で勤務することで、指導に客観性をもたせることができる。
- ・ 専門に指導するため、校内研修の推進や、小学校間や中学校との連携がしやすくなる。

留意点

- ・ 所属校ではない、兼務校において指導を行う場合には、児童理解の時間を十分に確保することが重要。
- ・ また、欠席した児童への配付物や連絡などの支援体制をつくる必要がある。

